

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：82702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370817

研究課題名(和文)江戸時代の神奈川県における絵図の出版状況および浮世絵との関係についての研究

研究課題名(英文) Study into the situation surrounding the publication of maps in the Kanagawa area during the Edo period and how they relate to ukiyo-e woodblock prints

研究代表者

桑山 童奈 (kuwayama, Dona)

神奈川県立歴史博物館・その他部局等・その他

研究者番号：70332393

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：現在の神奈川県における江戸時代の名所(金沢八景、鎌倉、江の島、大山、箱根、東海道の宿駅ほか)を題材として出版された絵図について調査を行い、出版資本や各名所の絵図の種類などを整理し、絵図出版についての名所の性格を分析した。その結果を前提に、中央(江戸)で出版された神奈川県を題材とする錦絵と表現、出版された地域を比較し、浮世絵と地方で出版された絵図との違いや影響関係などについて考察した。

研究成果の概要(英文)：This study examines maps depicting famous locations (Kanazawa-Hakkei, Kamakura, Enoshima, Mt. Oyama and Hakone, stations of Tokaido etc.) around the area currently known as Kanagawa during the Edo period, and puts into some kind of logical order, the capital behind the publications and the types of maps depicting each area in order to analyze the characteristics of each location. Based on these results, I compared ukiyo-e woodblock prints depicting Kanagawa published in Edo, the method of expression used and the locations in which they were published etc. in order to examine the differences between ukiyo-e woodblock prints depicting landscapes published in Edo and maps published in the area of Kanagawa and how they relate to each other etc.

研究分野：分野 人文学 分科 史学 細目 日本史 細目表 文化史

キーワード：絵図 浮世絵 出版 江戸時代 神奈川県 名所 観光

1. 研究開始当初の背景

(1) 錦絵の研究

江戸後期、市場で販売することを目的として江戸で出版された浮世絵版画(以下、錦絵)の中で名所絵と呼ばれる風景表現が人気となって、江戸市中の名所や江戸から京都までの旅の風景となる東海道の宿駅ほか、全国の名所が錦絵に描かれた。風景が主題となる名所絵だけではなく、例えば美人や歌舞伎役者とともに名所が描かれる例も多く、錦絵を通じて名所の風景が広く親しまれていたと考えられる。

現在の神奈川県域の名所としては東海道の宿駅(川崎、神奈川、程ヶ谷、戸塚、藤沢、平塚、大磯、小田原、箱根の九宿)をはじめ梅の名所であった杉田<横浜市磯子区>、海を望む風光明媚な金沢八景<横浜市金沢区>、武士の都であった鎌倉<鎌倉市>、参詣の対象であった江の島<藤沢市>と大山<伊勢原市>、温泉地の箱根<箱根町>などが、江戸近郊の観光地であったため、江戸以外の地域の中では数多くの錦絵に描かれた。奉職する神奈川県立歴史博物館にはこのような錦絵が原所蔵者の方針によりまとまって収蔵されており、以前から作品の情報を蓄積していた。

(2) 絵図の調査

また、神奈川県内各地では名所にある寺社や温泉宿や茶屋などが土産物として簡素な墨摺の絵図を出版していた。このような在地の資本による絵図は浮世絵師の署名と検閲印(改印)で絵師と出版年代が特定できる錦絵とは違って、描いた人物の素性も殆どわからず、版の摩滅具合から長期間にわたって摺り続けられたことが推定できるものの出版年代の特定は困難なものが多い。

同じ名所を題材としていても両者を比較すると、例えば江戸で出版された錦絵はランドマークの景観に美しい四季の彩を加えて描くが、絵図は錦絵より大きな画面に鳥瞰図形式で広範囲をとらえて墨一色であらわすという、表現の違いのほかそれぞれに特色がある。

(3) 研究動機

既に在地の資本による出版物に浮世絵師が関わる例について日本全国を対象に調査したことがあり(「浮世絵師と地方のつながり - 浮世絵師の署名がある〈地方出版物〉について」『太田記念美術館紀要 浮世絵研究』第2号、5-26頁、2012年)、神奈川県域で出版された絵図に浮世絵師が関与している例も確認したことから、出版の目的の違いはあるが、中央(江戸で出版された錦絵)と地方(神奈川県域の名所にゆかりの絵図)に共通点や影響関係

例えば、

- (1) 絵図が出版される場所と錦絵の題材に取り上げられる名所は一致するのか。
- (2) 旅行者によって土産物として江戸に

持ち帰られた絵図が、浮世絵師の眼に触れ、名所を描く表現に影響を与えたこともあるのではないかと、つまり地方の出版物が中央(江戸)の出版物に影響を与えたこともあったのではないかと考えた。

2. 研究の目的

- (1) 現在の神奈川県域にあった各名所で江戸時代に出版されたと推測できる絵図についての調査し、出版に関するデータと画像を収集し、整理すること。

① 絵図の所在確認、

② 出版に関するデータ(画中に記されている情報=絵図の名称、出版にあたっての出資元、絵師・彫師など技術者、出版年代、ほか大きさなど)の収集、整理。

上記から出資元(例えば温泉宿、茶屋、あるいは個人など)、各名所で出版された絵図の数などを整理し、名所の地域性を分析することを第一の目的とした。同一と見える絵図も版により文字情報や表現が異なることがあり、その違いは重要な情報となるので名称から同一と推測される絵図も調査した。

- (2) 第二に江戸で出版された多色摺の浮世絵(錦絵)と同じ名所を題材とした絵図について比較し、それぞれの性格、影響関係を明らかにすることを目的とした。

同じ名所を描いた例では表現についての比較、おもに絵図から錦絵への影響の有無を分析することを目的とした。さらに、現在の神奈川県域について絵図と錦絵の両方が取り上げた場所、絵図のみ、あるいは錦絵のみ取り上げる場所があったかなど、名所の特色をあきらかにしたいと考えた。

3. 研究の方法

(1) 絵図の調査

神奈川県域の名所で出版された絵図については図書館などの冊子目録、web上での目録公開を利用して所在を把握し、実地調査した。

調査させていただいたおもな機関は神奈川県立金沢文庫、神奈川県立図書館、川崎市立中原図書館、国立公文書館、東京大学総合図書館、東京都立中央図書館、西尾市岩瀬文庫(愛知県)、明治大学中央図書館(五十音順)。

収集した出版に関する情報についてはデータベースソフト(ファイルメーカーpro)を用いて整理、管理した。また、撮影させていただいたデジタル画像で絵図の表現細部を分析した。デジタル画像はモニター上で拡大できるため、絵柄が同じに見える絵

図の文字情報や風景表現について版による違いを見出すのに大きく役立った。

(2) 錦絵の調査

比較対象である錦絵の名所絵については、奉職する神奈川県立歴史博物館でまとまったコレクションを所蔵しており、作品に関する情報もデータベース化が完了しており、多くは写真も撮影済みであったため、情報やデジタル画像を利用して絵図との比較を行った。

加えて、寺社による出版活動の参考とするために神奈川県内の寺社について寺社が出版していた、いわゆる寺社縁起についても調査、情報の収集をはじめた。本研究では十分な調査ができず絵図との関連を検討するに至らなかったが、今後も調査を継続し、出版状況を比較、検討する所存である。

4. 研究成果

(1) 現在の神奈川県域で出版されていた絵図の特色。

従前からの調査で想定できていた点を再確認しただけでなく、今回、あきらかになった点もある。

まず、錦絵と対照的な特色は

- ① 錦絵の名所絵は一般的に大判横(およそ25×37 cm)、大判三枚続(およそ37×75 cm)と定型サイズがある。絵図は短い辺が25 cmより大きなものが多いが、定型はない。その大きさゆえに折り畳んで携行したと推測できる。また、現在は本紙に裏打ちを施されて保存されているものも多いが、本紙のみのもは紙が薄く、おもに薄い紙が使用されていたのではないかと考える。
- ② 錦絵に見られる検閲印「改印」がなく、地本問屋に加入する版元が生産する錦絵とは異なる出版システムである。
- ③ 表現は鳥瞰図が多く、各名所への経路が示されている。また、錦絵で愛でられる四季の変化はなく、場所の説明に徹している。
- ④ 版の摩滅が認められることから長期にわたる出版が推測できる。

このほか、本研究の絵図調査から判明したことは、

① 出版(出資)の目的について

絵図は観光客の土産物として販売されたものと想定していたが、画中の詞書などからその風景を愛する人が周囲に配布する自費出版と考えられる例(「守殿十景図」<守殿もりと=森戸大明神、葉山町>)があること、意味を的確にとらえることはできなかったが「禁売買」の文字がある例(「相州鎌倉郡田谷山定泉寺略絵図」<横浜

市栄区>の一版)があることから、必ずしも観光地の土産物として販売されたものではないと考えられること。

② 技術者について

以前の研究でも浮世絵師を起用した絵図を数点確認できている。金沢八景、箱根に歌川広重(初代)や一川芳員を起用した例があり、これらは墨摺ではなく錦絵同様の多色摺である。起用された絵師の活動期や画中の年紀から、浮世絵師の起用は幕末期の傾向と推測できる。

したがって、販売・頒布は名所で行うが、特に絵師については江戸の文化人の威光を借りることもあるのではないかと推定し、署名の名を江戸後期に出版された文化人名を収録した「人名録」に探してみたが、ほとんど見いだせなかった。

例外は研究期間途中で発表した、神奈川宿にあった茶屋の主人石崎源六が安政5年(1858)に刊行した版本『三五景一覽』で、挿絵にある署名の殆どを当時刊行されていたいくつかの「人名録」の人名に結び付けることができたので、江戸近郊ゆえの江戸への憧れが江戸の絵師を起用した例かと考察した。

また、描いた人の署名がある場合、「(名前)画」「(名前)筆」ではなく「(名前)写」と原図の存在を示唆するものが多い。しかし、今回の調査で先行する原図を確認できたものはなかった。

同様に出版における摺の過程までは江戸の技術者が行うことがあったのではないかと考え、彫師、摺師についても調べてみたが、絵師と同様に素性がわからなかった。

- ### ③ 出版システムについて。
- 研究以前は出資元ごとにオリジナルの絵図を出版したと想定していた。しかし、例えば「箱根七湯温泉絵図」は、ほぼ同じ絵柄で出資元(温泉宿)と画中の年紀が異なる3種があった。つまり、現代のカレンダーなどの印刷に見られるような、既用意された絵柄(絵図)に出資元の名前を入れる、というシステムがあった可能性がある。

- ### ④ 画面余白にみられる墨書。
- 購入年月日など出版年代を推定できる貴重な情報が書き込まれた例が複数あった。例えば、「宿原河綱下ヶ松八景図」(東京都立中央図書館特別文庫室蔵)には「天保三壬辰ノ五月廿三日(以下略)」と現地で買い求めた旨を記しており、出版時期を推測する手がかりとなる。

(2)神奈川県で絵図がつくられた名所・錦絵に描かれた名所

「1.研究開始当初の背景」でも述べたように江戸後期、名所を題材とする錦絵が盛んになり、江戸近郊である現神奈川県の名所は他の地域と比べても数多く取り上げられた。しかし、理由は判然としないが名所として親しまれながら鎌倉は錦絵には取り上げられていない。

今回、調査の結果、錦絵には殆ど取り上げられなかったが絵図は出版された名所に、綱下松(川崎市多摩区)、田谷山定泉寺(横浜市栄区)、厚木(厚木市)、森戸大明神(葉山町)、無量光寺(相模原市)、鎌倉(鎌倉市)があることを確認した。

このなかで、鎌倉は絵図出版が県域でも盛んで随一の出版数であったが、ほかは一種、多くても二～三種程度である。綱下松は一過性のご利益ブームにより名所となったことから絵図や縁起が出版されたが、厚木や守殿大明神は絵図中の文章から郷土や風景を愛する気持ちの個人による非営利出版のように思われる。

数量的に絵図出版が盛んであった地域は鎌倉、江の島、金沢八景である。前述したように鎌倉は錦絵に描かれたことは殆どなく、江の島は錦絵作例も多い。金沢八景は江戸で出版された錦絵もあるが、在地の資本が浮世絵師を起用し多色摺で出版したものも少なくないなど、絵図と錦絵の出版状況は各地で異なる。

また、錦絵に取り上げられたものの絵図が確認できなかった地域に神奈川宿と箱根以外の東海道の宿場町と杉田などがある。

以上、錦絵の出版については錦絵購買者の人気を反映して題材すなわち名所を取り上げたが、在地の資本による絵図はその出版は出資元の意向によるものであり、錦絵には取り上げられなくても絵図は出版される例があることがわかった。

(3) 絵図と錦絵との関係

錦絵は先行作例の表現を引用あるいは参考にしたと考え得る例が多い。本研究以前には錦絵に絵図の影響を指摘できる表現があるのでは、と仮説を立てた。しかし、影響関係を確実に指摘できるものは、今回は見いだせなかった。その一番の要因は、画面がとらえる面積の違いと情報の違いではないかと考える。

錦絵は「臥遊」という言葉であらわされるように、現地に行かずして風景に思いを馳せさせるように、見た目も美しくランドマークを適格に表現するものであり、一方、土産物としての絵図は実際訪れた時に楽しむとともに後に名所の思い出として思い起こすために文字も含めて情報量を多くあらわすものであったか、と考える。

(4) 報告書の作成

平成28年3月に報告書を作成した。絵図を所蔵する機関や神奈川県内の図書館ほかに配布する。報告書では地域ごとに、調査した絵図の情報と写真を紹介するほか絵図の特性および地域性について分析した。

例えば、「箱根七温泉図」(東京大学総合図書館石本コレクション蔵)には江戸の狂歌師たちが狂歌を寄せており、版元(温泉宿)が江戸文化の威光を借りたのではないかと、というような指摘も行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

「【資料紹介】石崎源六版『三五景一覽』の絵師たち-「人名録」を手がかりに-」『神奈川県立博物館研究報告-人文科学-』第41号、91-108頁、2014年、査読なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桑山 童奈 (KUWAYAMA Dona)
神奈川県立歴史博物館 学芸員
研究者番号：70332393